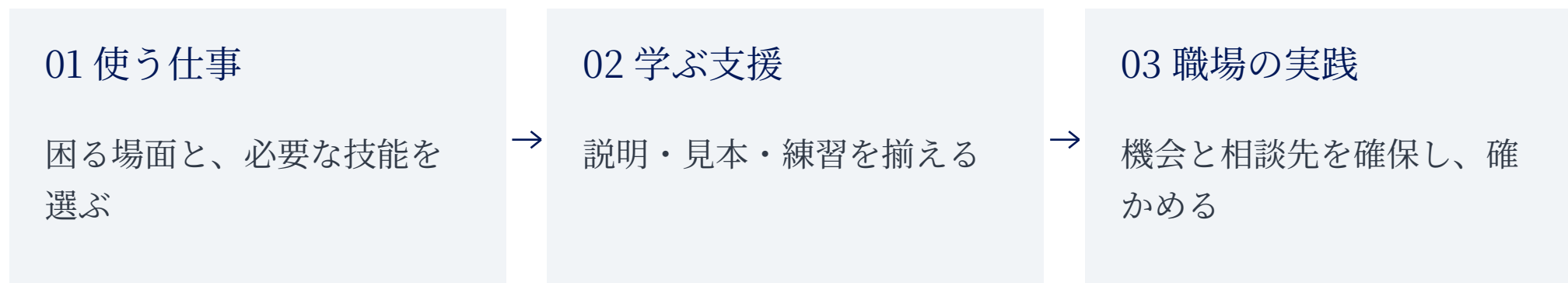


学ぶ内容を、使う仕事から考える

No.048 2021年10月6日発表 / 2026年10月23日改訂

日常の仕事で、何を確かめ、どこを変えるかを整理する提案です。

確認を進めるための整理（当社提案）



何を教えたかと、どの仕事で使えたかを分けて確かめる。

利用する場面・本人の条件・必要な支援に合わせて確かめます。

同じ場면을、何から確かめるか

No.048 2021年10月6日発表 / 2026年10月23日改訂

使い方を示す架空の例

質問例は覚えたが、面談で使えない

見直す前の条件

顧客の工程を知らず、聞く場面が選べない

次に確かめること

背景を説明し、練習と面談の機会を揃える

一つの面談を題材に、工程の確認が必要な理由を説明し、質問を練習します。面談する機会と相談先を確保し、得た情報で次の提案が変わったかを確かめます。使わなかった理由を、意欲の低さだけで決めません。

次の一件で使う、四つの確認

No.048 2021年10月6日発表 / 2026年10月23日改訂

1 本人の直近の仕事から、使う場面を選んだか

確認済み / 要確認 / 相談する

2 不足する知識・技能と、使う条件を分けたか

確認済み / 要確認 / 相談する

3 説明・見本・練習と、実践の機会を揃えたか

確認済み / 要確認 / 相談する

4 使えたことと、まだ支援が要ることを確かめたか

確認済み / 要確認 / 相談する

説明できる範囲と、確認が必要なこと

No.048 2021年10月6日発表 / 2026年10月23日改訂

本資料は、当時の発表を現在の説明へ改めた当社の実践提案です。個別手法の成果や、全員に共通する成長順序を実証した資料ではありません。仕事の条件と本人の希望に合わせて確かめます。

対人支援の職場で、指導者10人に他の職員へ技能を教える方法を訓練し、模擬場面と通常の仕事で教え方の改善を確認した研究です。説明・実演・練習・フィードバックを組み合わせる手がかりになりますが、日本企業の管理職や当社プログラム全体の効果を直接検証したものではありません。

参照した一次資料

Parsons, Rollyson & Reid (2013) Teaching Practitioners to Conduct Behavioral Skills Training

<https://link.springer.com/article/10.1007/BF03391798>

今回改めたことと、資料の使い方

No.048 2021年10月6日発表 / 2026年10月23日改訂

受講者を10%・80%・10%へ固定する分類や、6カ月後の効率向上等の断定を改めました。教示と共に考える支援を補い合うものとして整理し、旧画像を差し替え、改訂資料を添えました。

発表当時の記録を保持し、改訂内容と日付を示します。本資料の例や確認項目は、個別の条件に合わせて使うための提案です。

現在の公開資料と使い方の案内

<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/0000000343.000068315.html>

お問い合わせ：リクエスト株式会社

request@requestgroup.jp

<https://requestgroup.jp/request>